

京王グループの環境保全活動

京王グループでは、自然と共生する社会づくりをめざして、地域の皆様やお客様とともに環境保全活動に取り組んでいます。

高尾山では、2002年から日本山岳会「高尾の森づくりの会」が行う森林再生活動を支援しており、2016年に開催された育樹祭では、社員も参加して「ヒノキの若い林」に入り育樹（間伐）を行いました。また、2013年からは周辺の小学校と連携して植樹する苗木を育てる「種子から育てる苗木プロジェクト」に取り組みました。毎年春には「高尾の森親子森林体験スクール」を実施しています。

1991年からは沿線地域の環境保全を目的に、多摩川と高尾山で清掃活動「京王クリーンキャンペーン」を開催しており、2013年からは多摩川へ稚鮎累計約3,000匹の放流も行いました。

なお、詳しくは「安全・社会・環境報告書 CSRレポート」をご覧ください。（京王ホームページでの閲覧または冊子を同ホームページから無料でお取り寄せいただけます。）



自然と共生する社会づくりをめざして

高山市



「わたくしたちは乗鞍のふもと 山も水もうつくしい飛騨高山の市民です」

高山市民憲章は、この一文から始まります。高山市にとって大切な財産であり、象徴でもある「乗鞍岳」ですが、セイヨウタンポポなどの外来種の繁殖がみられます。貴重な高山植物の生態系を守るため、行政機関や観光事業者などで組織する「乗鞍美化の会」では、ボランティアを募り、毎年外来植物の除去活動を実施しています。

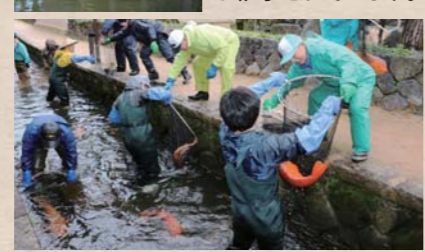
関係者が各々の立場で協力しあい、市民・事業者・行政が一体となった活動をこれからも続けていきます。

飛騨市

かつては漬物用の野菜を洗えるほどきれいな流れであった瀬戸川は、高度成長期頃より生活雑排水等による汚染が進みました。1968年、美しい流れを取り戻したいとの願いから、各種団体等の寄付により200匹余の鯉が放流され、現在では1,000匹を超える鯉が観光客の目を楽しませています。

瀬戸川を流雪溝として利用する冬期間、鯉は増島城址の堀池で越冬し、春に再び川へ戻ります。住民による鯉の引越し作業は季節の風物詩となっています。沿線住民により「瀬戸川愛沿う会」

が組織され、日常的に川のゴミ上げ作業が行われるなど、環境美化に対する意識が継承されています。



下呂市



下呂市萩原町では毎年5月30日のゴミの日に合わせて各地で環境美化活動を地域（自治会）が主体となって行っています。一級河川木曾川水系の飛騨川を挟んだ各22地区の住民約2,000人が、地域の宝である森と清流を中心とした美しいまちを次の世代に引き継ぐことを目的として、地域のゴミ拾いをはじめ、堤防の草刈りや公共施設の清掃、また、地域の景観を支える大切な農業用施設（農地、水路、農道等）の重点的な維持管理活動も同日に行っています。近年では特定外来生物であるオオキンケイギクの繁殖を抑えるために防除活動を行っている地区もあります。

「里地里山を歩こう」を見て散策されたご感想を募集しています。ご応募いただいた方には、**京王オリジナルグッズ**を差し上げます。

※京王オリジナルグッズの発送は、2017年8月31日（郵便ハガキの場合は当日消印、ホームページの場合は当日のご登録）のご応募までとさせていただきます。

感想をお寄せください。応募方法 郵便ハガキにご感想、郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、年齢、性別、電話番号を明記のうえ、〒206-8502 多摩市関戸1-9-1 京王電鉄広報部「里地里山を歩こう」係までお送りください。京王ホームページ（www.keio.co.jp/）からもご応募（4月から）いただけます。

里地里山を歩こう

発行/京王電鉄株式会社 広報部 〒206-8502 東京都多摩市関戸1-9-1
協力/高山市丹生川支所地域振興課 飛騨市商工観光部観光課 下呂市観光商工部観光課 濃飛乗合自動車株式会社

多摩丘陵に残る懐かしい風景を訪ねる

京王沿線

5
COURSE

里地里山の風景と自然を訪ねて

里地里山を歩こう

飛騨地方

3
COURSE

飛騨地方とのタイアップ企画

飛騨の里地を訪ねる3コースを掲載



KEIO

あなたと あたらしい あしたへ — 京王グループ